

製品名: JAK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12816**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:200-1:1000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	132kDa

抗原情報

遺伝子名	JAK1
別名	JAK1; JAK1A; JAK1B; Tyrosine-protein kinase JAK1; Janus kinase 1; JAK-1
遺伝子 ID	3716.0
SwissProt ID	P23458
免疫原	抗血清はヒト JAK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 988-1037

背景

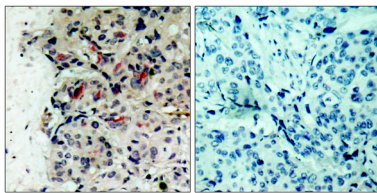
この遺伝子は、タンパク質チロシンキナーゼ (PTK) の一種である膜タンパク質をコードしており、PTK ドメインの N 末端側に第二のリン酸基転移酵素関連ドメインが存在することを特徴としています。コードされているキナーゼは、STAT タンパク質 (シグナル伝

達因子および転写活性化因子) をリン酸化して、インターフェロン α/β およびインターフェロン γ のシグナル伝達において重要な役割を果たします。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2016年3月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。 ,ドメイン: 2つのリン酸基転移酵素ドメインを有します。 2番目のドメインはおそらく触媒ドメインを含むと考えられます (類似性に基づく)。 一方、わずかな相違点の存在は、ドメイン 1 の役割が異なることを示唆しています。 ,ドメイン: FERM ドメインは JAKMIP1 との相互作用を媒介します。 ,機能: 非受容体型チロシンキナーゼで、IFN- $\alpha/\beta/\gamma$ シグナル経路に関与します。 インターロイキン-2 受容体のキナーゼパートナーです。 ,配列注意: 翻訳により N 末端が延長されます。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 Tyr タンパク質キナーゼファミリー。 JAK サブファミリー。 ,類似性: FERM ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。 ,類似性: SH2 ドメインを 1 つ含む。 ,細胞内局在: 完全に細胞内、おそらく膜結合型。 ,サブユニット: IL31RA、JAKMIP1、および SHB と相互作用する。 ,組織特異性: 原発性大腸腫瘍では正常大腸組織よりも高いレベルで発現する。 転移性大腸腫瘍における発現レベルは正常大腸組織における発現レベルと同程度である。 ,

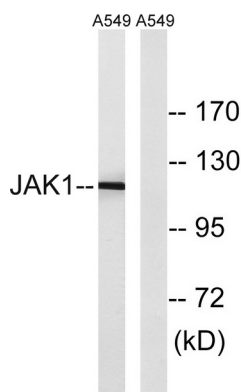
研究分野

Jak_STAT;がんの経路;膵臓がん;

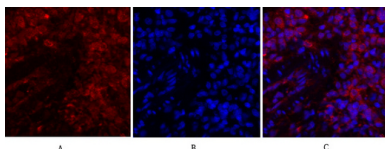
画像データ



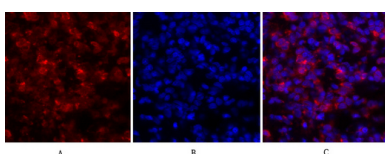
JAK1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



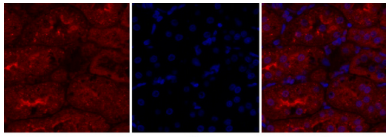
A549 のライセートを JAK1 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



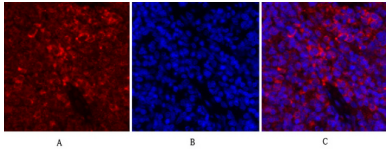
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, JAK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



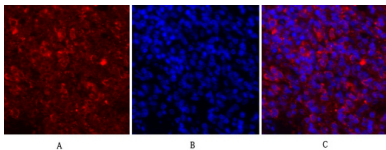
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, JAK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



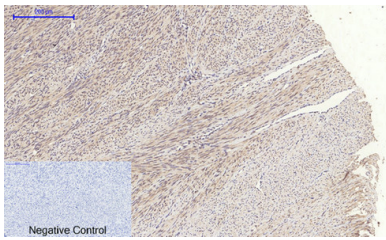
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, JAK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: 標的。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



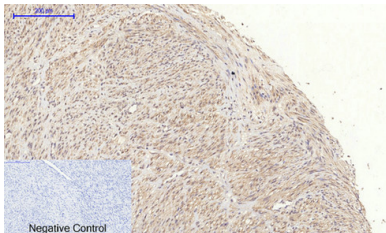
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, JAK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, JAK1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. JAK1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. JAK1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。